

天蚕飼料樹「エゾノキヌヤナギ」に対する施肥量

福島県蚕業試験場栽桑部
平成13年度蚕業試験場年報

1 部門名

蚕糸一栽桑一施肥法
分類コード 13-00-0000

2 担当者

堤 和敏・矢内正見

3 要旨

天蚕飼料樹「エゾノキヌヤナギ」は春の発芽が早く生育が旺盛で、同一株による年2回飼育も可能であるなど、天蚕の飼料樹として多くの利点がある。しかし、その栽培技術についてはほとんど試験されていない。そこで「エゾノキヌヤナギ」の適性施肥量を決定するため、樹体に取り込まれる窒素吸収量、並びに施肥量と収量との関係について試験を行った。

- (1) 地上部の物質生産量(乾物生産量)は、6月下旬には10a当たり765kg(条452kg、側枝+葉313kg)、10月上旬では1,997kg(条1,250kg、側枝194kg、葉553kg)となった。
- (2) 窒素吸収量は乾物生産量と同様の傾向で、6月下旬には10a当たり11.9kg、10月上旬には24.3kgであった。
- (3) 施肥量と収量との関係を桑専用肥料(N:P2O5:K2O=10:4:4)を用いて3年間試験した結果、収量は施肥量に敏感に影響し、3年間の合計収量は条葉量で、100kg区 6,156kg(指数100)、200kg区 6,748kg(同110)、300kg区 7,715kg(同125)であり、当試験の範囲内の施肥レベルでは施肥量が多いほど増収することが認められた。
- (4) 以上の結果から、天蚕飼料樹の「クヌギ」では窒素レベルで10a当たり30kgの施肥量が通常行われているが、「エゾノキヌヤナギ」では同等かそれ以上の施肥量が必要と思われる。

4 その他の資料等

なし